

ファクシミリの利用動向と交通代替性に関する一考察

大阪市立大学工学部 正会員 西村 昂
 大阪市立大学工学部 正会員 日野 泰雄
 大阪市立大学工学部 学生会員 ○水越 茂樹

1. はじめに

近年、通信システムの発達にはめざましいものがある。将来の高度情報化社会において、これらの通信システムは重要な役割を果たすと共に、経済活動、交通活動に極めて大きな影響を及ぼすと予想される。その中でもファクシミリについては、1972年に電話回線が開放されて以来急速に普及し、その設置台数も300万台に迫ろうとしている。

そこで本研究では通信手段の中でも現在電話に次いで広く普及しているファクシミリに注目し、その利用実態を調査することによってその交通代替効果を把握し、さらには来るべき高度情報化社会における通信と交通との関わりを考察するものである。

2. 調査の概要

本学の卒業生を中心にアンケート調査を行った。アンケート回収数は122人、回収率は30.3%であった。調査の内容は、Q.1 フェイスシート、Q.2 ファクシミリ利用に関する短所、Q.3 在宅勤務に関する意見、Q.4 ファクシミリの送信記録などについての質問で構成される。

3. ファクシミリ利用実態の分析

今回の調査(788件)におけるファクシミリ送信距離の分布をみると、0~5kmの区間がもっとも多く全体の36%を占め、距離が離れるほど送信件数は減少する傾向にある。ただし500~600kmの距離区間の送信件数は多くなっており、東京~大阪間などの主要都市間での通信頻度の多さが目立っている(図-1)。

ファクシミリの送信先では「新規取引先」よりも「得意先」、「社外」よりも「社内」が多く、また送信目的では「調査」や「請求」よりも「連絡」、「資料の送付」といった項目が多い。このようにFace to Faceコミュニケーションの必要性が少ない相手、目的においてよく利用されていることがわかる(図-2~図-3)。

Takashi NISHIMURA, Yasuo HINO, Shigeki MIZUKOSHI

さらに他の手段を用いずにファクシミリを選択した理由について質問したところ、ファクシミリの正確性、迅速性が重視されており、この2つの要因で全体の56%を占めた(図-4)。

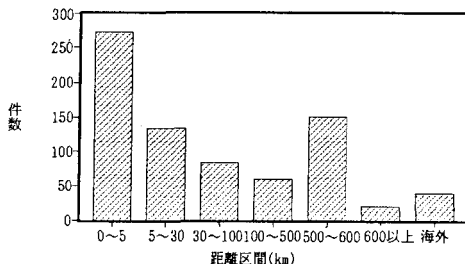


図-1 送信距離の構成

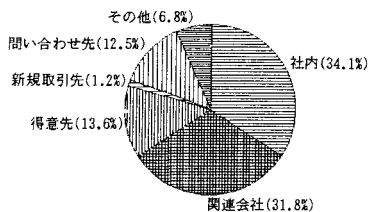


図-2 送信相手の構成

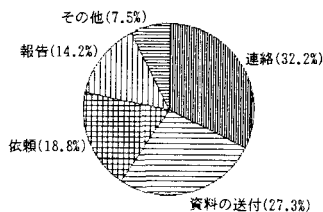


図-3 送信目的の構成

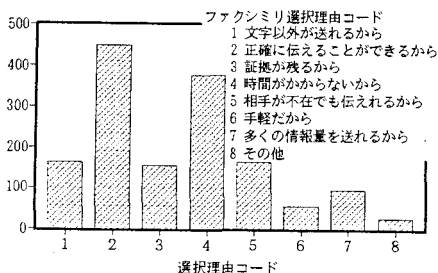


図-4 ファクシミリ選択理由の構成

4. ファクシミリによる交通代替可能性の分析

もし、ファクシミリを利用できないとしたらどの様な代替手段を選択するかを質問し、各手段ごとの代替率を求めた結果を表-1に示す。

またファクシミリの交通代替性に関する数量化Ⅱ類分析の結果を表-2に示す。これを見ると、距離による影響が最も大きく、距離が短い送信ほど交通を代替していることが表されており、ファクシミリによってある程度近距離の都市内交通が削減されていると思われる。しかしながら、相関比は0.271であり、他の要因も大きく絡んでいると考えられる。

表-1 各代替手段における代替率

代替手段	代替率
交通	25.8%
自動車	2.8%
電車・バス	8.9%
徒歩	2.3%
取りに来てもらう	11.8%
通信	28.9%
電話	25.9%
テレックス	3.0%
郵便	40.7%
その他(取りやめ、他)	4.6%

表-2 交通代替性に関する数量化Ⅱ類分析

アイテム	カテゴリ	サンプル数	スコア	レンジ	相関係数
業種	建設業	229	-0.240	0.581	0.139
	製造業	111	0.328	(5)	(3)
	商業	127	0.341		
	サービス業	22	-0.181		
	その他	218	-0.085		
職種	技術職	321	0.012	0.757	0.082
	営業職	113	-0.068	(4)	(5)
	事務職	140	0.145		
	管理職	119	-0.208		
	その他	14	0.550		
距離	～5km	255	-0.906	2.028	0.439
	～10km	157	-0.313	(1)	(1)
	～15km	48	0.745		
	～500m	51	0.996		
	～600m	142	1.125		
	600m～	20	0.468		
	海外	34	0.713		
相手	社内	244	-0.054	0.772	0.102
	関連会社	95	-0.113	(3)	(4)
	顧客先	229	0.225		
	新聞社・引当	8	-0.550		
	資料送付先	83	-0.099		
	その他	48	-0.303		
目的	依頼	128	0.072	1.750	0.185
	連絡	234	0.115	(2)	(2)
	調査	20	0.202		
	報告	97	-0.600		
	請求	8	-0.440		
	資料の送付	196	-0.031		
	その他	24	1.148		
その他	交通	185	-0.874		
	交通以外	527	0.310		

相関比: $r = 0.271$

5. ファクシミリ利用の短所と在宅勤務に関する意見

さらに将来における通信手段による交通代替可能性を検討するために、ファクシミリ利用に関する短所と在宅勤務に関する意見について質問を行い、通信手段に対する意識を調査した。

ファクシミリの短所については「相手に伝わったかどうか分からない」という意見が最も多く、さらに「情報が一方的」という意見を含めた相手との意見交換がしにくいという内容が全体の42%を占める(図-5)。予想されていた、「熱意、誠意などが伝わりにくい」といった Face to Face コミュニケー

ションに関する意見は意外に少なく1.2%にすぎない。ファクシミリは面接行動の代替手段というよりも、むしろメモ的に使用されている様子がうかがえる。

次に、将来の在宅勤務に関する希望についての結果を見ると、完全な在宅勤務を希望する意見は少ないが、一部に在宅勤務を取り入れたいという意見を含めると、63%が何らかの形で在宅勤務を望んでいることがわかる(図-6)。また、業種別、職種別に分類してみると建設業、技術者に肯定的な意見が多く、人と接触する機会の多い業種、職種ほど否定的傾向がみられた。

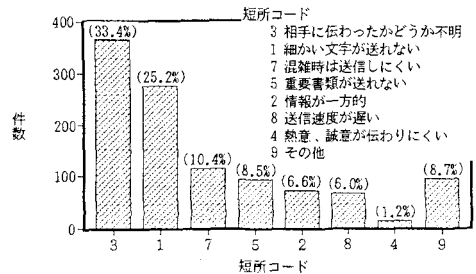


図-5 ファクシミリ利用に関する短所

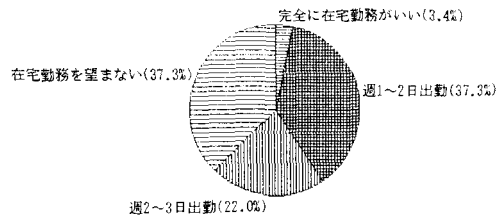


図-6 在宅勤務についての希望

6. まとめ

ファクシミリの交通代替率は25.2%であり、ファクシミリ送信の1/4程度は交通を代替していることが示された。また、送信距離が短くなるほど交通代替率は上昇する傾向にある。特に0～5kmの区間では10回中5回は交通を代替しており、都市内における交通量削減の効果があると言える。また、ファクシミリのメディアとしての性格上、Face to Face コミュニケーションのための手段として使用することは難しいが、今後さらに通信手段が発達するにつれ、この点はテレビ電話などのニューメディアによって代替されうと思われる。将来の情報化社会における交通問題を考える上では、今後さらに研究を重ね分析を行う必要がある。